

カリキュラム

機構施設名： 沖縄職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社日乃目

(A)バックオフィス	新技術活用	データ活用で進める業務連携
------------	-------	---------------

コースのねらい	所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	
講義内容	1	データ活用の基本	<p>(1) データとは何か？ データ活用の前にそもそもデータとはどのようなものか？データと情報の違い、またビッグデータとはどういうものか？をお話します。 演習：自社の保有するデータを列挙してみましょう。</p> <p style="text-align: right;">0.50</p> <p>(2) なぜ、データ活用が必要なのか？ 現在、DXをキーワードにITを活用した新たなビジネスの創出、生産性の向上のためにどのようにデータを活用していく必要があるのかをお話します。演習：自社のデータを活用していくことでビジネスの創出や生産性が向上しそうな内容を考えてみましょう。</p> <p style="text-align: right;">0.50</p> <p>(3) データ活用のために必要なルール データ活用するためにはルール整備が欠かせません。ルールを整備しておかないとどのような弊害を招くのか。ルールを整備することでどのようなメリットがあるのかをお話致します。</p> <p style="text-align: right;">0.50</p> <p>(4) データ分析手法と活用方法 マーケティングに利用できるデータ分析手法、生産性向上に利用できるデータ分析手法とその活用方法についてお話します。 演習：自社の保有するデータをイメージして、この項目で学んだデータ分析手法を当てはめたらどのようなようになるかを考えてみましょう！</p> <p style="text-align: right;">1.00</p> <p>(5) 生成AIを活用したデータ活用 ChatGPTをはじめとした生成AIを活用したデータ分析の方法を実際のデモを見ていただきながら解説を行います。</p> <p style="text-align: right;">0.50</p>	
	2	データマネジメント	<p>(1) データの品質管理 データ品質の基本概念、データ品質の評価項目、データ品質の管理手法などデータ品質についてお話致します。</p> <p style="text-align: right;">0.25</p> <p>(2) データの収集と蓄積及び共有 簡単なデータの収集方法からデータをどのように蓄積していくか？またそのデータを社内で共有する方法をお話します。 演習：社内、社外で作成してみたいアンケートなど、考えてみましょう！</p> <p style="text-align: right;">0.25</p> <p>(3) データの共有と連携 どのようにデータを共有すべきか？その共有方法とデータ連携方法についてご説明致します。</p> <p style="text-align: right;">0.25</p>	
	2	データ活用と業務の連携	<p>(1) 社内外のデータと業務連携 ・社内のデータを活用した業務連携の方法、社外の仕組みとの連携について、事例を交えてご紹介します。 演習：自社で連携しているデータもしくは連携したほうがいいと思うデータについて書き出してみましょう。</p> <p style="text-align: right;">0.75</p> <p>(2) データ分析ツールとデータ連携ツール データを活用するためのツールとデータ連携に活用されるツールについてお話致します。(EAI,API,ETLとの違い等)</p> <p style="text-align: right;">0.50</p> <p>(3) AIやRPAを活用したデータ連携 データ連携を行うためのデータ整備の作業は大変です。 生成AIを活用してデータ整備の作業負担削減方法とRPAを使ったデータ連携手法をご説明いたします。</p> <p style="text-align: right;">0.50</p> <p>(4) 本日の研修 データ活用で進める業務連携のまとめ 本日、お話をさせていただいた内容の再度まとめてお話いたします。 演習：本日の研修を受けて、実践できる内容と実践した場合の想定効果を考えてみましょう！</p> <p style="text-align: right;">0.50</p>	
	合計時間			6.00

カリキュラム作成のポイント	社内外にあるデータの分析から活用方法を基本として、データ連携による業務効率化のイメージを確認していただく。
---------------	---